

会長再任を受けて

法政大学工学部同窓会長 阿部 肇

本年3月4日に開催された第119回理事会において、再度、会長就任を要請されました。自分自身が最も良く解っていることですが、体力・能力とも既に賞味期限が過ぎていることで、本当に悩みましたが、役員各位の後押しを得て気力を振り絞り、初心に返って頑張る所存ですので、倍旧のご指導とご協力をお願い申し上げます。

工学部同窓会は、間もなく40年目を迎えます。かつては他学部同窓会からその充実した活動内容は羨望的でしたが、時代の変化や価値観の変動等により、近年は会費納入者の減少に歯止めが掛かりません。一方、大学を取り巻く環境は厳しく、間もなく大学全入時代を迎えるなど志願者を求める大学間競争は熾烈になっております。このような時こそ、我々卒業生が様々な形で大学に支援、協力していかなければならないと思っております。

いま同窓会が取り組むこと

魅力ある同窓会とするために、卒業生の結束力を高めるような活動を各委員会主導のもとで、積極的に行っていきたいと考えております。

第一に、「工学部同窓会のビジョン」を策定することです。これまでの工学部同窓会の歴史の中で多くの素晴らしい提言がありましたが、実行を試みるには至りませんでした。過去の提言をまとめ、今日の社会環境を反映した今後の指針となるべきものを策定したいと考えております。第二に、財政の再建が急務です。魅力ある同窓会活動があつてこそ、会費納入者の増加を図れますが、限られた財源の中でいかに効率良く活性化に繋げるかを検討しております。工学部同窓会の設立は、各学科同窓会の連合体でしたので、各学科同窓会の活性化にも配慮して、本部財政の縮小による学科同窓会還付金の増加も検討して参ります。

第三に、年1回の発行となった会報は、前号から卒業生の動向を知ると共に大学や学内の研究情報を覗ける内容に力を入れております。決算報告でも明らかなように会報発行は全卒業生を対象としているため、支出の中で大きなウェイト占めております。そこで、近い将来には、ペーパーレス又は会費納入者のみを送付対象として、ホームページを活用する方向を目指しております。今年度は、工学部同窓会ホームページの充実と全学科同窓会ホームページの立ち上げと連携について、推進していきたいと考えております。

第四に、「'05工学部ホームカミングデー」を別掲の通り11月5日に開催いたします。小金井祭に合わせて、多くの卒業生が参加し、キャンパスの状況を知り、教職員との交流をもち、気軽にキャンパスに立ち寄れる機会になれば、卒業生にとっても大学にとっても有意義となります。更に、大学としても産学提携や学生へのインターンシップ、リクルート関連情報提供等、多くの協同作業や関係構築を推進して戴きたいと思っております。

工学部の教学改革

本年4月、法政大学の新総長に平林千牧教授が就任し、大学執行部が一新されました。大学評議員の選任も、これまでの投票による選挙制度が廃止され、本年度からは推薦制度となりました。私も評議員として末席を汚



し、4期目を迎え、いつの間にか最古参となってしまいました。法政大学は昨年、最も経営革新力のある大学と評価されましたが、教学改革と共に施設の面でも市ヶ谷キャンパス隣接の嘉悦学園買収に伴う校地拡充、学生会館跡地の複合施設建設、付属一中高の新キャンパス用地として三鷹に27,692m²の買収などと活発です。遅れをとっていた工学部においても、3年前に緑町キャンパスを購入し、教学改革と共に小金井キャンパスの再開発がいよいよ本格化しております。清成忠男前総長は常々、「工学部の充実こそ法政大学の発展に繋がる」と強調されておりました。併し、他学部の偏差値が上昇する中で、工学部のみが下降している現実には、劣悪な教育環境もその一因と考えられており、早期にこの教学改革を推進して、法政大学の大飛躍に繋げて戴きたいと期待しております。

校友連合会の進むべき道

校友連合会の新会長に岩部金吾氏（経56）が就任しました。校友連合会は、1887年に設立された校友会と7同窓会が一体化して、2002年に発足しました。それは校友会が会費を納入した有志卒業生を会員として活動して110余年を経過して、更に大学に貢献できる卒業生組織を目指して設立されたものです。最大の課題は、財政基盤の確立のために大学に対して新卒業生の会費納入収受の代行（代理徴収）を求めることでしたが、本年度も見送られました。むしろ3年を経過して設立当時の趣旨から離れてきていることが懸念されます。新執行部にはこれらを形骸化することなく本来の目的達成のために尽力されるようお願いしております。

昨年の会則改正において、この機運は成就せず、当面は旧校友会並みの年会費3,000円を決定し、これまでの学部同窓会に対する一人500円の分担金制度を撤廃いたしました。工学部同窓会は、全会員に会報等でこのことを通知し、昨年度は220名の方々に納入戴きました。併し、残念ながら他学部同窓会は前年同様、全て分担金納入でした。他学部同窓会は早急に会則を遵守して個人が年会費を納入して、旧校友会と同じ土俵で活動しなければ、一体化はできても一本化はできません。